

南の風

- ・巻頭言
- ・六年生に感謝する会
- ・委員会引き継ぎ式
- ・3月のこれからの予定



バトンパス

校長 若狭 陽一

3月は引継ぎのシーズンです。引継ぎは、よく、リレー競技のバトンパスに例えられます。

学校でも、子ども同士のバトンパスが、盛んに行われるようになりました。例えば、2月22日の「児童会新旧委員長同士の引継ぎ式」です。さらに、2月28日には、5年生がリーダーとなり、下級生と力を合わせて、「6年生に感謝する会（以下、六感会）」を開いてくれました。

六感会では、「6年生 南小を支えてくれてありがとう～この思い 引き継ぎます！」をスローガンに、下級生全員で6年生に感謝の気持ちを伝えました。体育館の壁には、この巨大なスローガンだけでなく、6年生一人一人の顔写真が掲示されました。また、児童玄関には、6年生一人一人の名前と、各6年生に向けた下級生の感謝のメッセージが掲示されました。六感会の内容はもちろんのこと、校舎内の掲示からも、下級生の6年生に対する感謝の気持ちが強く感じられました。6年生もさすがです。六感会が終わると、全校放送で、「今日は、ぼくたちわたしたちのために、心のこもった会を開いてくれて、ありがとうございました」と、お礼を述べていました。このように、今学校では、バトンパスが繰り広げられるとともに、卒業に向けての温かな雰囲気広がっています。

バトンは、古代ギリシャで部族を代表する若者たちが神殿まで競走するときに受け渡したたいまつが起源とされています。オリンピック聖火リレーのトーチの起源も同様です。リレーが陸上競技となったのはアメリカが最初で、バトンを実際につなぎながらトップでゴールした者が勝者となりました。日本でも、バトンパスするリレーは、早くから体育の指導内容となっています。

体育でバトンパスを練習するとき、私たち教員は次のように子どもに指導します。受ける方には、「親指と人差し指の間をしっかりと開いて。腕は地面と平行に伸ばして」などと指導します。渡す方には、「渡す前に声を出して。グイッとバトンを押し込んで」などと指導します。これらは、受ける方は相手が渡しやすいように、渡す方は相手が受けやすいようにするためのコツです。

では、「最高学年」というバトンを上手に受け渡すコツは何でしょうか。それは、感謝と信頼であると私は考えます。「5年生は、バトンを渡してくれた前走者（6年生）に感謝し、ひたすら走り続ける。6年生は、バトンを受けてくれた次走者（5年生）を信頼し、ひたすら応援し続ける」ということではないでしょうか。

これからも、様々な場面で、バトンパスが繰り広げられます。感謝の気持ちと信頼の気持ちで走り続ける子どもたちであってほしいと願います。

3月22日は第65回卒業式です。式に参加する卒業生、在校生、保護者、来賓、教職員のみならず、感謝と信頼のあふれる式にしたいと考えています。



六感会：6年生へ感謝のメッセージ贈呈